

福生市教育委員会 殿

学校名 福生市立福生第二中学校  
校長名 平井 貞昭 印

## 令和8年度 教育課程について (届)

このことについて、福生市公立学校の管理運営に関する規則に基づき次のとおりお届けします。

### 1 教育目標

#### (1) 学校の教育目標 (重視する「育成を目指す資質・能力」)

人権尊重の精神に基づき、創造性に満ち、心身の向上を目指して、他と協力できる個性豊かな実践力のある人間を育成する。

- 豊かな心と知性を養う . . . 思考力・判断力・表現力
- ・ 強い意志と体力を育てる . . . 自己理解力・自己管理能力
- ・ 勤労意欲と責任感を培う . . . 課題解決力・実践力・人間関係形成力

( ○印は、本年度の重点事項 )

#### (2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

ア 思考力・判断力・表現力を育成するために

- ① 各教科等で、基礎的・基本的な「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく育成する。
- ② 単元や題材のまとまりを重視し、何をどのように学ぶかを確認し、生徒自身が計画をたてる。単元の中で、自分自身ができるようになったことや、それらを振り返る中で自ら学習を調整し、生徒の意欲を高め主体的な学習を促す。
- ③ 各種学力調査等を活用して一人一人の学習状況を把握し、全教職員が同一方針のもとに授業改善を行うために、「授業改善推進プラン学校シート」を実効的に活用し、生徒一人一人の理解度に応じた学習が可能となる個別最適な学びを実現する。
- ④ 各教科等における協働的な学習を通して行われる探究や発表活動の充実により、言語能力を育成し、自らの考えを深め、適切に判断し表現する力の育成を図る。

イ 自己理解力・自己管理能力を育成するために

- ① 「福生市立学校の体力向上策 (第2次)」を踏まえ、「体力向上推進計画」を作成し、心身が健康で調和のとれた生徒の育成を図り、生徒自らが心身の健康の重要性について自覚することができるよう東京都テストデジタル集計システム「ALPHA」を活用し、生涯にわたり健康的な生活を営もうとする目標を立て、進んで体力を伸ばそうという基盤づくりを行う。

学 校 名 福生市立福生第二中学校

- ② 安全教育の充実により、生徒が自らの安全を意識し行動するとともに、他者や地域社会の防災等に貢献できる資質・能力を育成する。
- ③ 歯磨き指導等を通して、自身の健康の維持や促進について理解し、実践しようとする意欲を高める。

ウ 課題解決力・実践力・人間関係形成力を育成するために

- ① 「考え、議論する道徳」を推進するとともに、全ての教育活動を通して道徳教育の充実を図り、生命尊重・人権尊重の精神の涵養に努める。
- ② 「いじめ防止基本方針」に基づいた指導や、いじめ防止サミットの経験及び、「新・ふっさっ子宣言」を活用し、発達支持的生徒指導の理念を踏まえ、教職員が、いじめが起きない「居場所づくり」をすすめるとともに、「ふれあい月間」等を通じて生徒が自らすすんで「絆づくり」を行い、生徒の健全育成を推進する。
- ③ 道徳教育や人権教育との関連を深めながら障害者理解教育を計画する。また、CSと連携したボランティアマインド育成のための取組や、グローバルに活躍する人材を育成するための異文化理解や体験を目的とした外国人講師との英会話教室や交流を推進する。
- ④ DX時代を生き抜く人材を育成するために、生徒が一人1台端末を効果的に活用し、学校生活や各教科等の学習において、見通しをもち、自ら計画を立てて学校生活及び学習に取り組めるようにする。（「デジタルを活用したこれからの学び」の推進）
- ⑤ 教育活動全般にわたって、生徒一人一人の、社会的、職業的自立に向け必要な基盤となる能力を育成するために、特別活動を要としたキャリア教育を充実させる。

エ 学校の教育目標の達成に向けたその他の事項

- ① コミュニティ・スクール（以下、「CS」）として、学校支援地域組織の活動を推進し、地域社会との連携強化を図る。
- ② 生徒及び保護者アンケートの結果やCS委員会による学校評価を公開するとともに確実な改善につなげ、教育活動の充実を図る。
- ③ 地域社会と協働し、日本の伝統文化の良さを体験的な学習を通して学び、郷土に愛着や誇りをもち、発展に寄与しようとする生徒の育成を図る。
- ④ 「安全教育プログラム」を活用し、安全教育の一層の充実を図るとともに、CS委員会と連携した防災教育を行い、他者や社会の安全に貢献できる資質・能力を培う。
- ⑤ 部活動改革を進めるため、FJCによる地域人材の活用と連携により、部活動のガイドラインに則った充実した部活動を提供する。
- ⑥ 「福生市特別支援教育プログラム（令和8年3月改訂）」を踏まえ、全教職員が特別支援教育の目的や意義を十分理解するとともに、正しい理解や認識を深め、「合理的配慮」等一人一人のニーズに応じた確実な支援を組織的に提供する。
- ⑦ 生徒自身の豊かな心を育み、他者への思いやりの心や、表現力を高めるために、読書活動を推進する。

## 2 指導の重点

### (1) 各教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動

#### ア 各教科

- ① 5教科を中心に、既習事項の復習テストを帯活動として取り入れるなど、基礎・基本の習得を徹底するとともに、資質・能力の三つの柱をバランスよく育成し、主体的・対話的で深い学びにつなげるための工夫を、教科における指導に確実に組み込み実践する。
- ② 令和3・4年度福生市教育委員会研究奨励校、令和4・5年度東京都教育委員会不登校児童・生徒支援調査研究事業協力校として取り組んだ研究過程や結果を基に、授業における「居場所づくり」に徹底して取り組む。特に「デジタルを活用したこれからの学び」にある、学び方プロセスに則り、生徒が単元の目標や本時のねらいを理解した上で、学習計画をたて、学習方法や学び方を選択し、生徒が主体的に考え、学習過程や本時のねらいの達成状況を振り返りながら授業を実践し、単元目標を達成させる。
- ③ 一人1台端末を活用し、知識や技能を習得について、教師が与えるのではなく、自ら情報を収集したり、それらを整理し、自身の考えを構築し、様々な方法で表現したり他者参照や他者とのディスカッションを踏まえて自身の考えを再整理するなど、生徒間また生徒・教員間の双方向のやり取りを活性化し、ICTの効果的活用を前提とした、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
- ④ 「デジタルを活用したこれからの学び」を考慮した、「新・福生二中の授業スタンダード」を実践し、「個別最適な学び」や「協働的な学び」を充実させ、全ての生徒にとって「できた」、「分かった」、「頑張った」と感じられる授業を追究する。
- ⑤ 各教科の学習内容を、生徒の実生活に結び付けて指導することを通じて、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力である自ら学ぶ力を育成する。
- ⑥ スモールステップを意識した家庭学習の課題を適切に課すことにより、生徒が日常的に学習に取り組む習慣を確立する。
- ⑦ 授業及び放課後の自宅学習等において学習支援ソフト「ミライシード」等を活用し、個別最適化された学びと、基礎基本の定着および、学力調査の振り返り等による反復学習を促し、確かな学力の定着を実現する。
- ⑧ 福生市総合学力調査や全国学力・学習状況調査等の結果分析等により、学習指導上の課題を把握し、全教職員が同一方針のもとに授業改善を行うことができるように、授業改善推進プラン学校シートを活用し、互いに進捗状況を確認したり、成果を共有したりするなどして、R-PDCAサイクルを強化する。
- ⑨ 英語・数学における東京方式少人数習熟度別指導による授業や、長期休業期間中の学習教室、放課後の学習教室、ALTを活用した学習教室等を実施し、個に応じた指導の機会を充実させ、学力の向上や学びに向かう姿勢を育む。
- ⑩ グローバルに活躍する人材の育成を図るために、小・中学校の学びの連続性を踏まえた指導を行う。そのために、小中連携部会で情報共有や授業観察を講じ、4技能5領域のバラ

学 校 名 福生市立福生第二中学校

ンスのとれた指導を目指し、学びの一貫性を意識した生きた英語力の充実を図る。また、習得した英語力を実際に活用し、振り返らせ、次の学習意欲へつなげる連続した取組み場面として、第1学年～3学年で実施するESAT-J、第2学年で行う体験型英語学習施設(TGG)の体験プログラム、第3学年でGTECを実施し、効果検証を行いながら生徒の確かな英語力の向上を目指す。

- ⑪ ALTの効果的な活用を進め、放課後の学習教室や、休み時間や給食時間にも積極的にALTを活用する。さらに、生成AIによる英作文添削サービス「ライップ」の活用により、身に付けた知識・技能を目的や場面や運協に応じて、思考・判断・表現できるツールとして活用することで、自らの学習を調整し、自己の課題を見付けて、主体的に学習に取り組む力を身に付けさせる。
- ⑫ 教員の声掛け、授業の振り返りの記入や、講話等でメモをとったり、事前・事後学習を通じて主体的な参加を促すこと、また取組のポートフォリオ化を通じて、自身の資質・能力についてどのように伸びているかを把握するとともに、主体的な学習活動への参加を促し、学習自ら改善したり、学習意欲の向上を推進する。
- ⑬ 生徒の泳力を向上させるために、生徒の実態を踏まえた委託業者と連携し、円滑な実施計画を立て、水泳指導の充実を図る。

## イ 道徳科

- ① 特別の教科道徳では、教科書(『新しい道徳』東京書籍)及び、『心みつめて』、『私たちの道徳』等の教材を計画的に活用し、一人一人が道徳的価値に根ざした問題について「考え議論し、深める道徳」の実践を通して、よりよく生きていくための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。
- ② 道徳的価値についての理解を基に、多面的・多角的に考え、人間としての生き方について考えを深める学習が展開できるよう、「考える道徳」、「議論する道徳」の指導を充実させる。特に、他者への思いやりなど、豊かな心を一人ひとりに育む教育の推進のために、道徳教育推進教師を中心とした機能的な推進体制を構築し、「道徳科校内研修ノート」を校内研修や学年会で活用するなどして、発問の精選、評価の在り方を工夫するといった道徳科の授業改善を十分に進めていく。
- ③ 道徳科の授業が補充、深化、統合という役割を一層担うために、生徒及び学校の実態を踏まえ、各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの、道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるものを、道徳教育全体計画に別葉として加え、教育活動全体を通じて計画的、発展的に道徳教育を行う。
- ④ 「二中人権の日」を設け、人権課題について考えたり、「人権教育プログラム」を計画的に活用したりするなど、自他の生命と人権を大切にす姿勢を日頃から発達支持的生徒指導を踏まえて育み、全ての人の人権が真に尊重される学校づくりに向けた行動につながるように指導を行う。また教職員は、自らの言動が生徒に与える影響の大きさを自覚し、

学 校 名 福生市立福生第二中学校

人権教育年間指導計画を基に、いかなる場面においても生徒の人権を尊重した教育活動を行うことを徹底する。

- ⑤ 道徳授業地区公開講座を土曜授業公開日に全学級で開催し、学校・家庭・地域社会が一体となった道徳教育を推進する。意見交換会については、参加者が多く集まるよう道徳授業の日頃の出組の様子を発信し、道徳授業の重要性について生徒だけでなく、地域や保護者へ投げかけるなどして、周知の方法や開催方法を工夫し、生徒の豊かな心を育むために学校、家庭及び地域社会にできることについて、東京都教育委員会が制作したビデオ資料を活用するなど、積極的に意見交換が行える形式を工夫して企画する。

ウ 総合的な学習の時間

- ① 3年間を通じた、言語活動、探究活動、発表活動を通し、段階的に考えを深め適切に判断し表現する力を育成する。実社会や実生活の中から問いを見いだし、自ら課題を設定し、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- ② キャリア教育は生徒に将来の生活や社会、職業などとの関連を意識させる学習であることから、職場体験学習やCS、企業等と連携した職業講演会を中心としたキャリア学習の機会を確保する。その際地域人材を活用し、体験的な活動における経験と日々の授業における学びを関連付け、学習意欲の向上を図る。また、自己を理解し、将来の生き方について展望をもち、主体的に考え行動する力を段階的に身に付けさせることができるよう、3年間の計画をたて、実践する。
- ③ 地域人材を積極的に活用した伝統文化体験や国際理解教育、修学旅行などを通じて、日本の伝統文化の良さを体験的に学習し、「ふるさと福生への愛着と誇りを培う学校」として郷土に対する愛着や誇りをもち、その発展に寄与しようとする生徒の育成を図る。
- ④ 学校図書館やICT機器等の教育環境を有効活用し、情報を収集し活用する能力を身に付けさせる。情報モラルの指導は、一方的に知識や対処法を教えるのではなく、「GIGAワークブックとうきょう」等を活用し、生徒自らが考える活動を重視する。

エ 特別活動

- ① 基礎的・汎用的能力の育成に向けて、それらを日常生活と関連付けて目標を立てさせるなど、福生市版「キャリア・パスポート」を活用し、学校全体で系統的にキャリア教育を実施する。生徒が主体的に自己の課題を捉え、それを改善しながら自分自身の生き方を考え、自己実現を図っていく力を身に付けさせる。その際、とりわけ担任等からのコメントを大切にする。
- ② 「中央委員会」や「専門委員会」などの自治活動、「体育大会」や「合唱コンクール」等の学校行事において、課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図り、意思決定することができる力を養うことができるよう、教師が見通しをもって計画し、生徒が主体的に取り組むことができる環境を整備し、実行させる。そうすることで主体的に自治活動に取り組み、集団や自己の課題を解決する資質・能力を養う。

学 校 名 福生市立福生第二中学校

- ③ 第1学年を対象に「薬物乱用防止教室」、第2学年を対象に「がん教育」を実施し、生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を営もうとする意識を高める。
  - ④ 入学式や卒業式などの儀式的行事においては、その意義や活動の必要性を理解させ、新しい生活への意欲と希望をもてるようにするために、社会性に対して日常的な指導を継続して行うとともに、生徒自身に考えさせる機会をもたせ、主体的に儀式に参加する意欲や姿勢を育む。
  - ⑤ 学級活動では、生徒同士の話し合い等において、合意形成を行うことができるように、教師がその場面を計画的、意図的に設定し、生徒との打合せを通じて、生徒が中心となって話し合い活動が進めることができるようにする。また、相手の立場を理解し、よさを見付けようとしたり、互いに協力し合ったり、認め合うことができるように、発達支持的生徒指導を踏まえた生徒指導を日常的に行うことで、より良い人間関係を築き、支え合う学級風土を築く。
- (2) 教育目標を達成するための特色ある教育活動・その他の配慮事項等
- ア 特色ある教育活動
- ① 「福生市の先生が選んだ100冊」等を図書室に特設コーナーとして設置し、読書活動を推進するとともに、毎朝10分間の朝読書を実施する。そして、読書に親しむことを習慣化し、落ち着きある学校生活の実現を図る。
  - ② 「スーパーアクティブスクール」の研究成果を生かし、いつでも、どこでも、気軽に楽しく体力を向上させることができる取組を継続して行い、心身が健康で調和のとれた生徒の育成に努める。
  - ③ 小・中学校の合同の授業研究や交流等を通して、「ふっさっ子スタンダード」等を活用した指導について研究を深め、中学校区小学校と連携した系統性のある指導を行う。
  - ④ 特別支援教育コーディネータを中心に、保護者や本人の意向を十分に踏まえた学校生活支援シートを組織的に作成し、一人一人のニーズに応じた教育支援を行うとともに、関係機関と連携しながら指導目標を踏まえた計画的かつ組織的な特別支援教育を推進する。
  - ⑤ 「障害者理解」、「豊かな国際感覚」、「ボランティアマインド」の資質を重点的に育成する。
  - ⑥ 「魅力ある学校づくりレベルアップセット」を効果的に活用及び活用の強化を図るために、年度当初に目指す生徒の姿を決め、それに向けた特別活動の計画を充実させる。年度当初の「スプリングウィーク」におけるオリエンテーションや学級組織作り、体育大会等の行事をはじめとした、教師の「居場所づくり」と生徒の「絆づくり」の場面を特に充実させ、小学校生活との円滑な接続を図るとともに、いじめや不登校の未然防止につなげる。2学期以降についても、学年会等で年度当初の取組を見直ししながら調整し、目指す生徒の姿の実現に向けて取り組む体制を整える。

## 学 校 名 福生市立福生第二中学校

- ⑦ 歯磨きに関する正しい知識と習慣を身に付けるために、体育・健康教育全体計画に基づき実施していく。
- ⑧ 今年度の校内研修研究主題「未来に向けて主体的に学び続ける生徒の育成～デジタルを活用したこれからの学びの実践を通して～」により、あらゆる教育活動において、生徒が実感をもてるよう、魅力ある学校づくり各種セットを活用した魅力ある学校づくりを推進する。
- ⑨ C S委員を含めた外部人材の活用を積極的に行い、水曜学習教室、仕事の話聞く会、ゴールボール教室、法教育等の様々な取組を推進する。

## イ その他の配慮事項

- ① 生徒の個別の課題に対応するために、「ふたばサポートチーム会議」を学期に1回開催し、外部機関と連携して課題解決を図る。
- ② 経営支援部を校内組織に位置付け、校務改善を図る。
- ③ 授業公開、学校だより、学校ホームページ、学校連絡アプリ等を通じ、個人情報の保護に配慮しつつ、積極的に学校情報の発信を行う。
- ④ 校内における「居場所づくり」の取組の一環として、「サポートルーム」や「ふたばルーム」を不登校生徒や学校不適應の生徒への「居場所づくり」として活用する。
- ⑤ 多様な学びを創出し、子どもたちが尊重し合いながら学ぶ環境の整備を進めるとともに、特別支援教育の充実とともに、必要な支援や指導について適宜アセスメントを行いながら、復帰や指導期間での退室に向けて指導や支援を行っていく。
- ⑥ 不登校生徒については、Microsoft Office teams を活用しながら、定期的なやりとりを行いながら支援を行うとともに、学びの保障の重要性を鑑み、学習成果の評価や必要な支援を行う体制を整え、個別のケースに合わせながら指導に当たる。
- ⑦ 不登校支援コーディネータ及び不登校対応巡回教員を中心に不登校の未然防止・早期対応・長期化した生徒への支援を組織的に行う。また、不登校生徒等の学びを保障するため、動画配信等によるオンライン併用型授業を推進したり、校内別室「サポートルーム」を設置し、学校の人的資源を活用してオンライン授業に参加したり、学習の個性化を図ったりすることができる機会と場を提供する。
- ⑧ 特別支援教育校内委員会を核とした、通常の学級における特別支援教育の充実を図る。特別支援コーディネータを中心に、生徒一人一人の実態把握を担当や学年教員と連携して行い、具体的な指導や支援を検討し、実行する。また、校内の基本的環境整備やそれに基づいた個別の合理的配慮を検討し、実行することで、生徒一人一人のニーズに合った個別の支援を実現する。

## (3) 生活指導・進路指導

## ア 生活指導

- ① 全ての生徒が自発的・主体的に自らを発達させていくことが尊重され、その発達の過程を教職員が支えていくことができるように、全教職員が生徒指導の2軸3類4層構造を

## 学 校 名 福生市立福生第二中学校

理解するとともに、特に発達支持的生徒指導を充実させ、生徒一人一人の社会的資質・能力の育成を図る。

- ② 学校生活のきまり・生徒指導マニュアル・学校危機管理マニュアルを全教職員で共有し、全校で統一した指導を行う。生徒との信頼関係を築くことを第一に、その事象の背景や気持ちを理解しようと努め、合理的配慮、傾聴の姿勢をもって指導にあたる。また、教職員間で必ず情報を共有し、組織的に指導にあたる。規範意識や社会性、互いの良さを認め合い、協力し合える人間関係を築くことができる態度を育成することで、生徒の自己指導能力の向上を目指す。
- ③ 年3回の「ふれあい（いじめ防止強化）月間」において、学年や委員会等で生徒の主体的な取組を活性化させ、居場所づくりや絆づくりを率先して行う。「学校いじめ防止基本方針」を教職員が正しく理解し、実践できるように年3回のいじめ防止研修を充実させるとともに、生徒、保護者と共有し、いじめを許さない、起こさない学校づくりを進める。日常の見守りや生徒情報の共有、「いじめアンケート」による、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応の体制を築く。いじめが起きない環境を生徒自身が主体的に作るができるように、「いじめ防止標語」を作成したり、いじめ防止サミットに参加していじめ防止について考えを深めたり、主体的にいじめをなくそうとする心や態度を育む。教職員においては、学期に1回、年間計3回のいじめに関する研修と授業を行い、理解を深め、生徒と共に考え、いじめを起こさせない学校づくりを実践していく。
- ④ 東京都教育委員会DVD教材、SOSの出し方に関する教育を推進するための指導資料「自分を大切にしよう」を、第1学年1学期特別活動の時間に設定する。また、長期休業に入る前や、必要に応じて全校生徒にSOSの出し方に関する指導を行ったり、年3回の「ふれあい（いじめ防止強化）月間」を活用して、「SOSの出し方に関する教育」を行ったりする。
- ⑤ 個別支援委員会を週ごとに実施し、スクールカウンセラー、市教育相談室、学校適応支援室など関係機関と情報を共有するとともに、支援策を策定し確実に実行する。
- ⑥ 不登校児童・生徒支援調査研究事業を活用し、「居場所づくり」、「絆づくり」を柱とした、「一人一人が夢や希望をもって生活する学校づくり」を行い、全ての生徒を対象とした不登校の生じにくい学校づくりを推進する。
- ⑦ 「児童・生徒欠席状況一覧」を効果的に活用し、校内や関係諸機関と共有するなど、不登校状態にある生徒への早期対応や不登校状態が長期化している生徒への支援等、適切な支援を図る。
- ⑧ 交通安全に関する正しい知識や態度を育むために、月1回の安全指導日の講話や交通安全啓発に関する案内等の配布、「安全教育プログラム」を活用した声掛けをするなどして事故等の未然防止に努める。また、生徒を非行、犯罪、トラブルから守るために、セーフティ教室で外部講師による講話を聞いたり、安全指導日の講話や安全指導に関する資料を発行し、日常的な安全指導を充実させる。

## 学 校 名 福生市立福生第二中学校

- ⑨ 月1回の避難訓練において、1学期に自助、2学期に共助・公助について学び、3学期には主体的に判断し行動できる、他者と協力できる態度を段階的に育てていく。また「防災ノート～災害と安全～」等の補助教材を計画的に活用したり、地域の防災訓練等への参加や避難所としての学校の役割について考えを深めることができる活動を行ったりして、自らの環境や地域の特性に合った避難行動や知識を養う。
- ⑩ 「安全教育プログラム」や福生警察と連携した不審者対応訓練を活用し、学校内外の事件・事故・トラブルの防止に努めるために必要な情報や知識を研修等で教職員に伝達し、適切な指導を行うことができる体制を作る。
- ⑪ DX時代を生き抜く人材を育成するために、「GIGAワークブックとうきょう」を活用したり生徒会を中心に「福生二中SNSルール」を啓発、浸透させたりする取組を行ったりすることで、生徒に情報活用能力を育む。また、保護者会や月1回の安全指導日等の機会を通じてSNSや、インターネットの適正な利用やトラブルに対する対処法について伝達し、保護者と連携した指導の充実を図る。
- ⑫ 全ての学年で「生命（いのち）の安全教育」を年間1単位時間以上実施し、生徒の性暴力被害防止に向けて取り組む。
- ⑬ 「ふっさっ子スタンダード」を踏まえ、本校校区における小中連携事業の一層の推進を図り、義務教育9年間における継続的かつ一貫性ある指導を推進する。

## イ 進路指導

- ① 3年間を見通した進路指導を計画的に実施するとともに、学級活動の年間指導計画に「一人一人のキャリア形成と自己実現」に関する内容を位置付けることで、教育活動全般にわたってキャリア教育を展開することにより、将来に展望をもち、より良い生き方を追求する生徒を育てる。
- ② 進路に関する情報提供やガイダンスを充実させ、生徒一人一人に、将来の生き方を考える態度や主体的に選択する力を育成する。また、自らの意志と責任で進路を選択することができるようにするために必要な取組とは何かについて、生徒自身が自ら考えながら3年間の学習に取り組むことができるサイクルを示すとともに、社会の実態や求められる力を様々な教育活動の中で育み、身に付けることができる取組を、整備しながら実施していく。
- ③ 第1学年のキャリア学習から始まり、第2学年で3日間の職場体験活動の実施、上級学校の教員や地域人材を講師として招聘した講演会等を開催する取組等を通して、学校での学びが社会や自分の将来とどのようにつながっているのかを意識し、学びの意義や意味を理解できるようにする。
- ④ 外部機関や特別支援教室、日本語教室と連携し「合理的配慮」に基づいた丁寧な進路指導を行う。
- ⑤ キャリア・パスポートの作成と活用を通して、生徒が自己の成長や変容を把握し、生活改善や将来について考える活動を実施する。

## 3 学年別授業日数及び授業時数の配当

## (1) 年間授業日数配当表

月 学年	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1	17	19	22	13	4	19	21	19	19	16	19	18	206
2	18	19	22	13	4	19	21	19	19	16	19	18	207
3	18	19	22	13	4	19	21	19	19	16	19	15	204
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2学年の授業日数は207日とする。</li> <li>・第1学年の授業日数は、入学式が1学期始業式の翌日のため、第2学年より1日少ない206日とする。</li> <li>・第3学年の授業日数は、卒業式が修了式の3日前のため、第2学年より3日少ない204日とする。</li> <li>・1学期は、4月1日から8月26日までとする。</li> <li>・夏季休業日は、7月21日から8月26日までとする。</li> <li>・2学期は、8月27日から12月31日までとする。</li> </ul>												

## (2) 各教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動の年間授業時数配当表

領 域		学 年		
		1	2	3
各 教 科	国 語	140	140	105
	社 会	105	105	140
	数 学	140	105	140
	理 科	105	140	140
	音 楽	45	35	35
	美 術	45	35	35
	保 健 体 育	105	105	105
	技 術 ・ 家 庭	70	70	35
	外 国 語(英語)	140	140	140
	小 計	895	875	875
道 徳 科		35	35	35
総合的な学習の時間		50	70	70
特別活動(学級活動)		35	35	35
総 計		1015	1015	1015

備		考		
ア その他の授業時数				
区分	学年	1	2	3
生徒会 活動	生徒会行事	3	3	3
	委員会活動	11	11	11
学校行事		55	73	62
イ 1 単位時間				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 50 分</li> </ul>				
ウ 授業時数に位置付けない教育活動				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝読書(毎朝 10 分、年間約 160 回)</li> <li>・ 補習(放課後、夏季休業中など 1 回 60 分程度、年間約 40 回)</li> <li>・ 専門委員会(放課後 50 分程度、年間 11 回)</li> <li>・ 中央委員会(放課後 30 分程度、年間 11 回)</li> </ul>				
エ そ の 他				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 振替休業日のない土曜授業(年間 4 回)</li> </ul>				